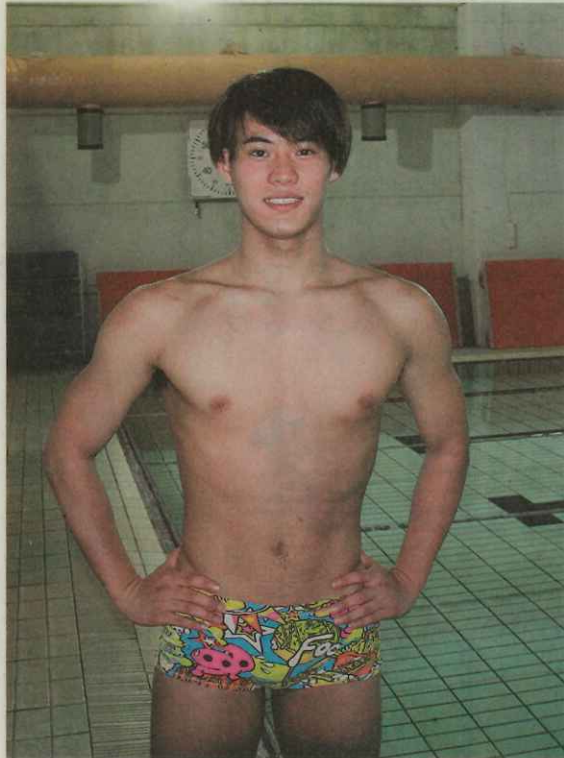


## 尾張版



(第3種郵便物認可)

## 十代十色



五輪出場への決意を語る山田さん―蟹江町蟹江新聞で

## 速い選手に挑み成長

バタフライで五輪代表目指す

## 山田 悠太さん(17)

調子がいいと、水面を「飛んで、伸びる」感覚になる。東京五輪が延期された今、競泳・バタフライで代表入りを狙う高校3年生は、さらなる飛躍を誓う。

6歳で水泳を始め、小学2年から、蟹江町のスイミングクラブを拠点に練習を続ける。少年時代は「ただ楽しく泳いでいた」が、中学2年の時、県内の有力選手が集う選抜合宿に参加し、意識が変わった。「他の選手の泳ぎを見て、一つ一つの練習を大事にする大切さに気付いた」

それ以来、練習で隣を泳ぐ選手には「絶対負けない」という気持ちで臨むようになった。中学生でも高校3年生との勝負を自ら申し出た。「自分より速い選

手と泳ぐ環境をつくるのが成長につながる」。中学3年で全国JOCジュニアオリンピックの200mバタフライで優勝し、成果を証明。中京大中京高(名古屋市)に進学し、高校総体の地区予選では、全国で2番目に早いタイムを出した。

出場予定だった五輪の選考会も兼ねた4月の日本選手権が、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止に。3月末からは練習施設が使えず、約2カ月間、泳げなかった。だが、それも前向きに捉える。「水泳ができることに感謝の気持ちが芽生えた。どんなに苦しい練習も乗り越える覚悟ができた」。大きな目標へ、再びスタートを切った。

(深世古峻一)